TL2ADMIN
（システム管理ソフト）

取扱説明書

株式会社 エム・システム技研

NM-6193-W 初版

目次

1. はじめに 3

1-1 接続方法 3
1-2 インストール方法 3

2. パスワードの設定 4

2-1 はじめの設定 4
2-2 パスワードの変更 4

3. ＴＬ２定義 5

3-1 定義ファイルの参照 5
3-2 ＴＬ２定義の登録 5
3-3 接続ポートの選択 7
3-4 生存状態の確認 7

4. 稼動状態（オンライン、オフライン、通報停止） 9

4-1 ローカル接続 9
4-2 リモート接続での設定 9
4-3 実効トグルＳＷ 9

5. 日付の変更 10

5-1 編集開始 10
5-2 読込み 10
5-3 書込み 10

6. 蓄積データの初期化 11

1. はじめに

ＴＬ２ＡＤＭＩＮはＴＬ２シリーズ用のシステム管理ソフトです。ＴＬ２ＢＬＤと組み合わせて、各種設定や蓄積データの初期化などを行います。

1-1 接続方法

パソコンとＴＬ２を接続する方法は下記の３通りです。

①専用コンフィギュレータ接続ケーブル（形式：ＭＣＮ－ＣＯＮ又は、ＣＯＰ－ＵＳ）

②パソコンにモデムを接続し、電話回線経由での接続する（ＴＬ２Ｆなどの対応機種）

③ＬＡＮ経由でパソコンとＴＬ２を接続する（ＴＬ２Ｗなどの対応機種）

1-2 インストール方法

このソフトウェアは、弊社ホームページよりダウンロードが可能です。圧縮ファイルで配布されます。圧縮ファイルを解凍すると setup.exe ファイルが作成されます。setup.exe を実行するとインストールが開始されます。表示される画面に従って操作してください。

TL2ADMIN のショートカットがスタートメニューとデスクトップに登録されます。

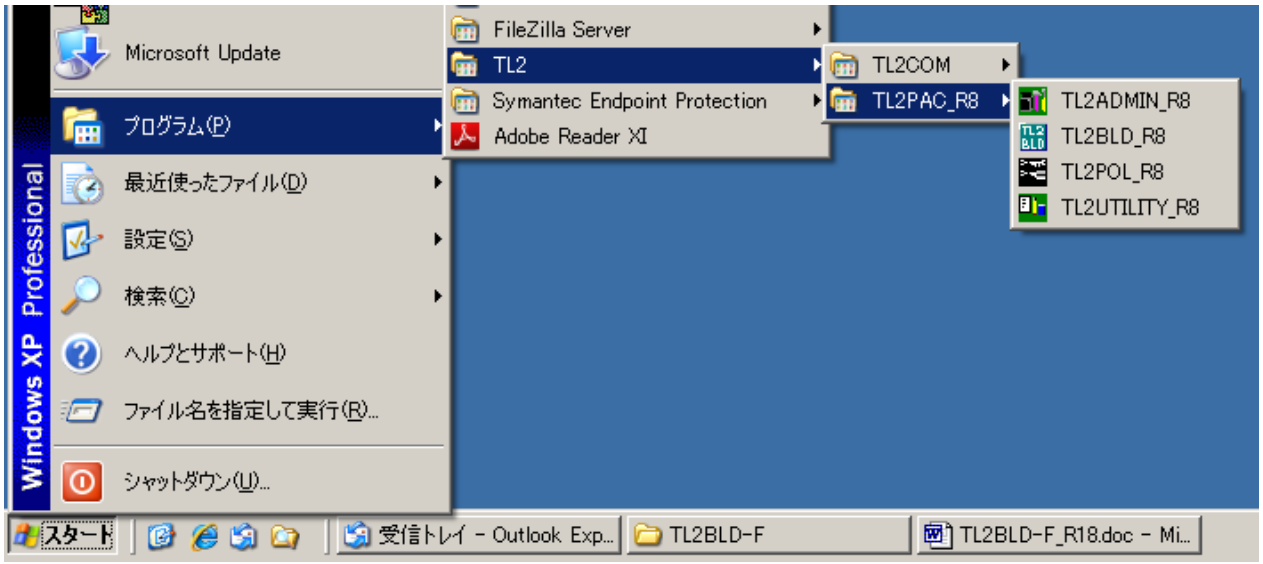

図１－１．スタートメニューへの登録

2. パスワードの設定

2-1 はじめの設定

インストールを行ってから初めてＴＬ２ＡＤＭＩＮを起動すると、パスワードの設定画面が表示されます。

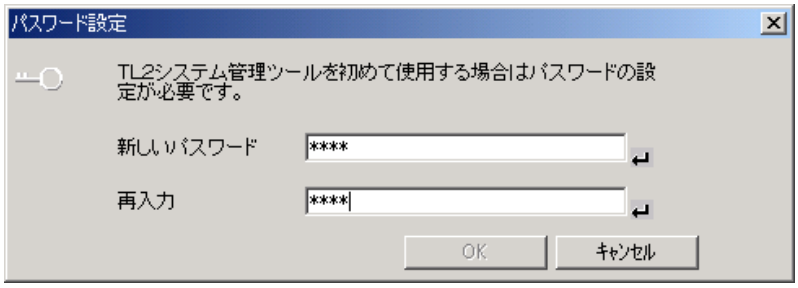

図２－１．パスワード初期設定

2-2 パスワードの変更

ＴＬ２ＡＤＭＩＮを起動した上で、タイトルバーを左クリックすることでパスワードの変更が行えます。

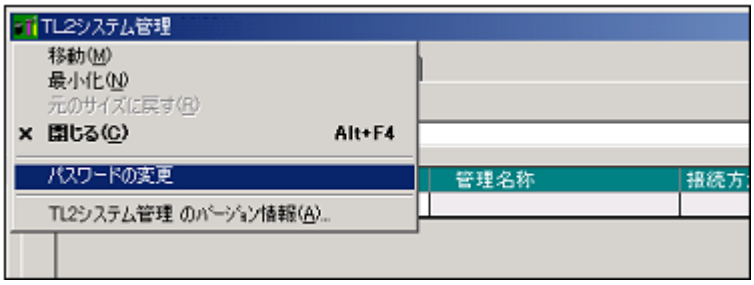

図２－２．パスワード変更

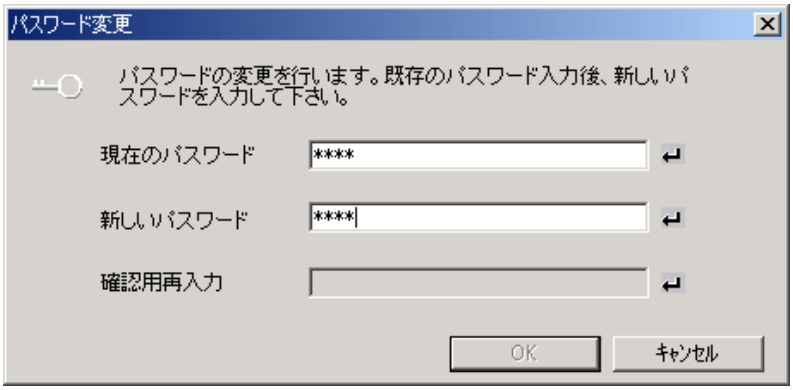

図２－３

3. ＴＬ２定義

管理番号や電話番号などＴＬ２と通信を行う時に必要な情報を登録します。ＴＬ２を複数台登録した場合は、対象とするＴＬ２を選択してから時刻やトグル SW の変更を行います。

接続する為の TL2 本体の登録を下記の２つの方法で登録が行えます。

（1）ＴＬ２ＢＬＤで設定した定義ファイルを参照します。

（2）この画面で直接ＴＬ２の管理番号や電話番号を登録します。

また、リストの先頭の「選択」オプションボタンをクリックすることで、接続する TL2 本体を指定します。生存確認、日付の変更、トグル SW の変更、蓄積データ初期化を行う前に、対象の TL2 本体を選択してください。

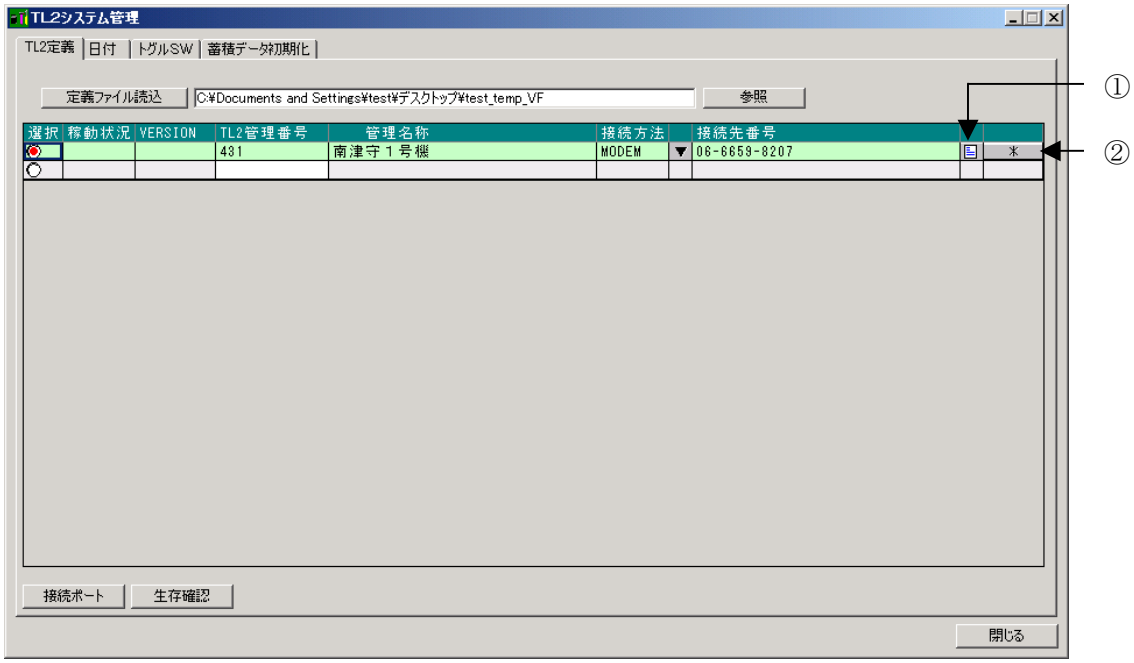

図３－１．ＴＬ２定義の設定画面

3-1 定義ファイルの参照

ＴＬ２ＢＬＤで作成した定義ファイルを参照する場合に設定します。

「参照」ボタンを押すとフォルダの参照画面が表示されるので定義ファイルの格納されているフォルダを指定してください。

3-2 ＴＬ２定義の登録

3-2-1 定義ファイルを読込する場合

3-1 でフォルダを設定すると、「定義ファイル読込」ボタンの右側に設定したフォルダのパス名が表示されます。（図３－１）「定義ファイル読込」ボタンを押すと、下の表に参照したファイルの設定値（管理番号や管理名称など）が表示され、その行は緑色に変わります。定義ファイルの参照については、同じ管理番号で複数のＴＬ２定義を登録することが出来ません。管理番号が同じ場合は同一のＴＬ２とみなして既存の行に上書きを行います。登録するＴＬ２の管理番号は必ず一意になるように設定してください。

ＴＬ２定義の設定画面（図３－１）

①：参照している定義ファイルのパス名を表示します。

②：参照している定義ファイルの設定内容を表示します。「定義ファイル読込」で定義ファイルの参照を行っている行については変更が出来ません。変更はＴＬ２ＢＬＤで行ってください。

3-2-2 定義ファイルを入力する場合

接続方法や接続先の電話番号などを一時的に変更する場合や参照する設定ファイルがない場合に使用します。ただし、管理番号やパスワードなどがあらかじめ分かっている必要があります。

1．末尾の行（ＴＬ２管理番号だけが白色の行）に、対象となるＴＬ２の管理番号を入力します。その行のロックが解除されるので管理名称、接続方法、接続先番号（電話番号、ＩＰアドレス）を入力してください。

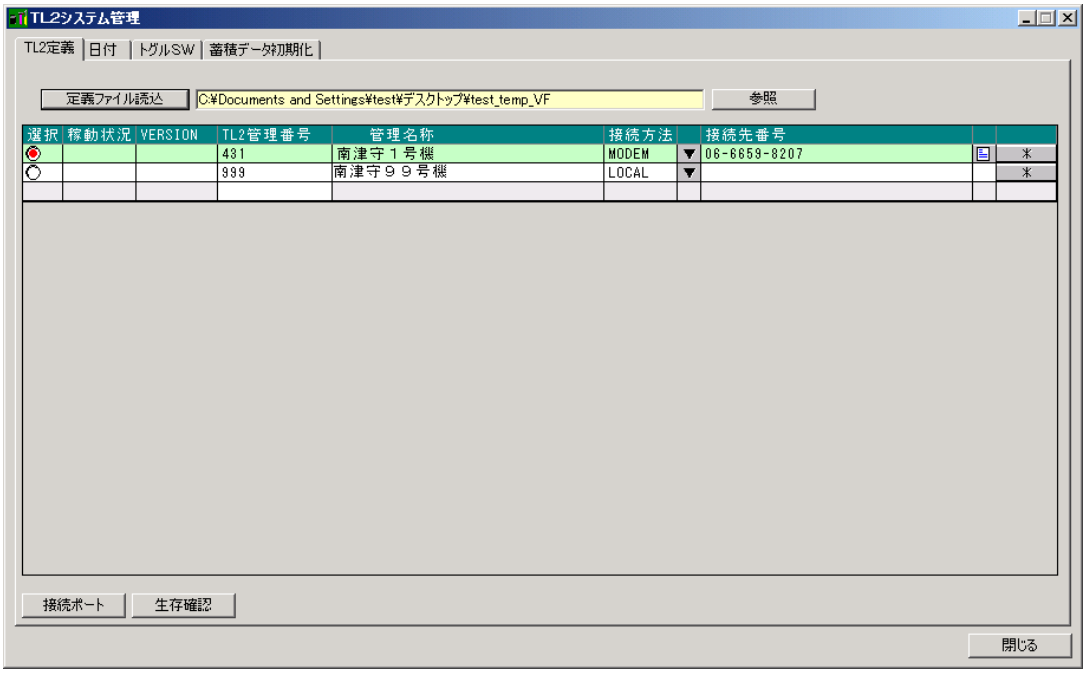

図３－２．ＴＬ２定義の入力

接続方法

①LOCAL：専用コンフィギュレータ接続ケーブルでパソコンと接続する場合です。
「接続ポート」ボタンからケーブルを接続しているパソコンのポート番号を設定してください。

②MODEM：パソコンにモデムを接続し一般公衆回線経由で設定を行う場合です。
「接続ポート」ボタンからモデムを接続しているパソコンのポート番号を設定してください。
接続先番号にＴＬ２の電話番号を登録してください。

③LAN　：LAN 経由で設定を行う場合です。接続ポートの設定は不要です。
接続先番号にＴＬ２のＩＰアドレスを入力してください。ポート番号は“5001”固定です。末尾に自動的に追加されます。

2．次に「＊」ボタンを押し基本画面に移動してください。管理番号、ＰＣ着信パスワード、ＴＥＬ着信パスワード、接続方法を設定してください。登録が終わったら「ＯＫ」ボタンでＴＬ２定義画面に戻ってください。
これで対象となるＴＬ２と通信が行えるようになります。

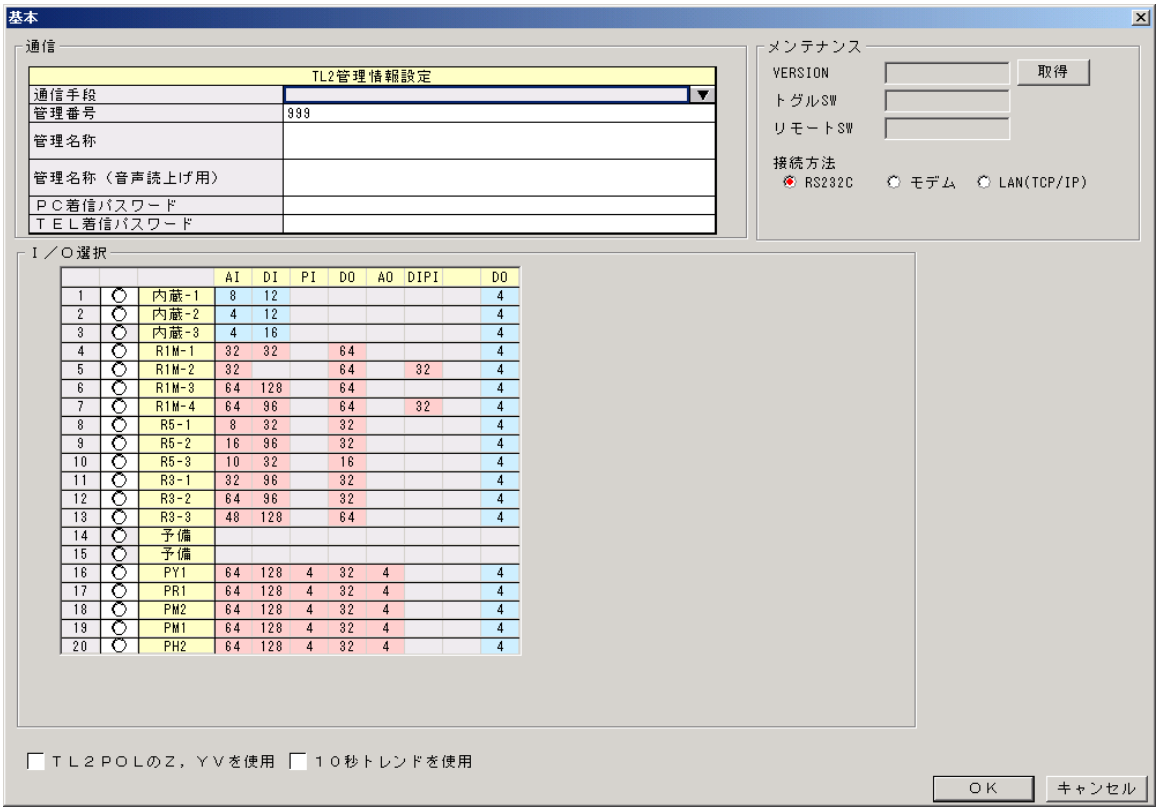

図３－３．基本画面

3-3 接続ポートの選択

ＬＯＣＡＬ接続の場合にＴＬ２と通信を行うパソコンのポート番号を選択します。コンフィグレータ接続ケーブルが接続されているポートを図３－４の画面で指定します。

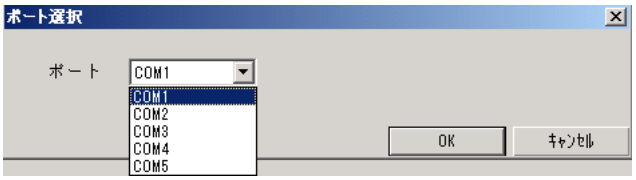

図３－４．ポート選択

3-4 生存状態の確認

登録されているＴＬ２が正常に動作しているか確認できます。またＴＬ２から応答があった場合は現在の稼動状態を取得します。通信を行う為には、管理番号とＰＣ着信パスワード（モデム接続の場合はＴＥＬ着信パスワードも）が必要です。ＴＬ２定義で設定を行ってください。

モデム接続の場合

TL2 本体とアナログ公衆回線で接続の場合には通信を行う際に図３－５の画面が表示されます。使用するモデムの指定やＴＥＬ着信パスワードも必要になります。

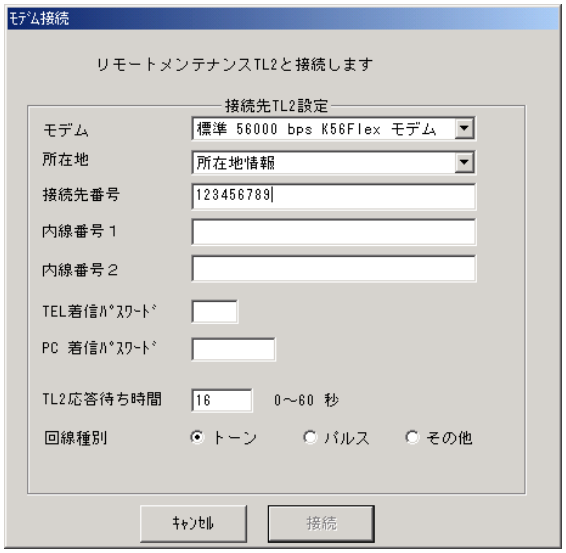

図３－５．モデム接続画面

ＴＬ２応答待ち時間：

ＴＬ２ＡＤＭＩＮが電話をかけてからコマンドを送るまでの待ち時間です。モデムにより若干、待ち時間が変わります。ＴＬ２は電話を受けてパスワードの要求（発信音）を行い、約１５秒間コマンドを待ちます。電話をかけてからＴＬ２が電話を受けるまでの時間を考慮したうえで、ＴＬ２が着信し発信音を出力してから１５秒以内にコマンドが送信されるように待ち時間を決めてください。モデムのスピーカをＯＮにしてＴＬ２からの発信音の後にＴＬ２ＡＤＭＩＮからパスワードのプッシュ音が出力されているか確認してください。

また、音声機能付きのＴＬ２については着信のあと音声メッセージを読上げるので、更に待ち時間を長く設定してください。

4. 稼動状態（オンライン、オフライン、通報停止）

ＴＬ２の稼動状態を表示、変更します。

日付の変更や蓄積データ初期化、ＴＬ２ＢＬＤでの設定変更を行う為にはＴＬ２がオフライン（保守モード）である必要があります。これらの操作を行う前に、当機能でＴＬ２の稼動状態をオフラインに変更、またはオフラインであることを確認してください。

日付の変更や蓄積データ初期化を行う為にはＴＬ２の実効トグルＳＷがオフライン（保守モード）である必要があります。ＴＬ２に実装されているトグルＳＷ（ＴＬ２トグルＳＷと表現します）をＲＵＮ、ＤＩＳＡ.ＲＰＴ 、ＣＮＦＧに切り替えることで実効トグルＳＷをそれぞれオンライン、通報停止、オフラインに変更できます。また、モデムなどを利用して遠隔地からＴＬ２の稼動状態を変更するにはリモートトグルＳＷを変更することで稼動状態（実効トグルＳＷ）をオフラインにできます。

注意：蓄積データ初期化などオフライン状態での操作が終了したら稼動状態（実効トグルＳＷ）をオンラインに戻してください。オフラインのままだと事象の検出やデータ蓄積を行いません。

4-1 ローカル接続

「ＴＬ２読込み」ボタンを押すことで、ＴＬ２トグルＳＷの状態を表示します。

ローカル接続で日付の変更や蓄積データ初期化、ＴＬ２ＢＬＤでの設定変更を行う場合はＴＬ２トグルＳＷがオフラインであることが必要です。「ＴＬ２読込」ボタンを押して現在のＴＬ２トグルＳＷがオフラインであるか確認してください。

図４－１．稼動状態

4-2 リモート接続での設定

ＭＯＤＥＭやＬＡＮで遠隔地からＴＬ２に接続する場合に、リモートトグルＳＷの各ボタンを押すことでソフト的に稼動状態を変更できます。

リモート接続で日付の変更や蓄積データ初期化、ＴＬ２ＢＬＤでの設定変更を行う場合は実効トグルＳＷがオフラインであることが必要です。「リモートトグルＳＷモデム」をクリックしてリモートトグルＳＷをオフラインにしてください。同時に実効トグルＳＷもオフラインに変わります。また、モデムで通信接続を行う場合は図３－５のモデム接続設定が必要になります。

4-3 実効トグルＳＷ

実効トグルＳＷはＴＬ２トグルＳＷまたはリモートトグルＳＷの状態を反映します。

オフライン＞通報停止＞オンラインの順に稼動状態が優先されるので、どちらかのトグルＳＷが優先度の高い稼動状態（例えばオフライン）にある場合は片方を優先度の低い状態（オンライン）に変更しても実効トグルＳＷは優先度の高い状態（オフライン）を保持します。従って、リモートで稼動状態を変更する時はＴＬ２のトグルＳＷをＲＵＮ（オンライン）にしておかないと実効トグルＳＷを遠隔地からオンラインにすることが出来なくなりますのでご注意ください。

5. 日付の変更

5-1 編集開始

日付の変更は「編集開始」ボタンでＴＬ２との通信を開始してから行います。

通信を開始してから１分以内で変更を行ってください。１分を過ぎると通信が切断されますので、その場合は再度「編集開始」を行ってください。通信は１分間で自動的に切断されますが、それ以前に編集を終了したい場合は「編集終了」ボタンを押してください。

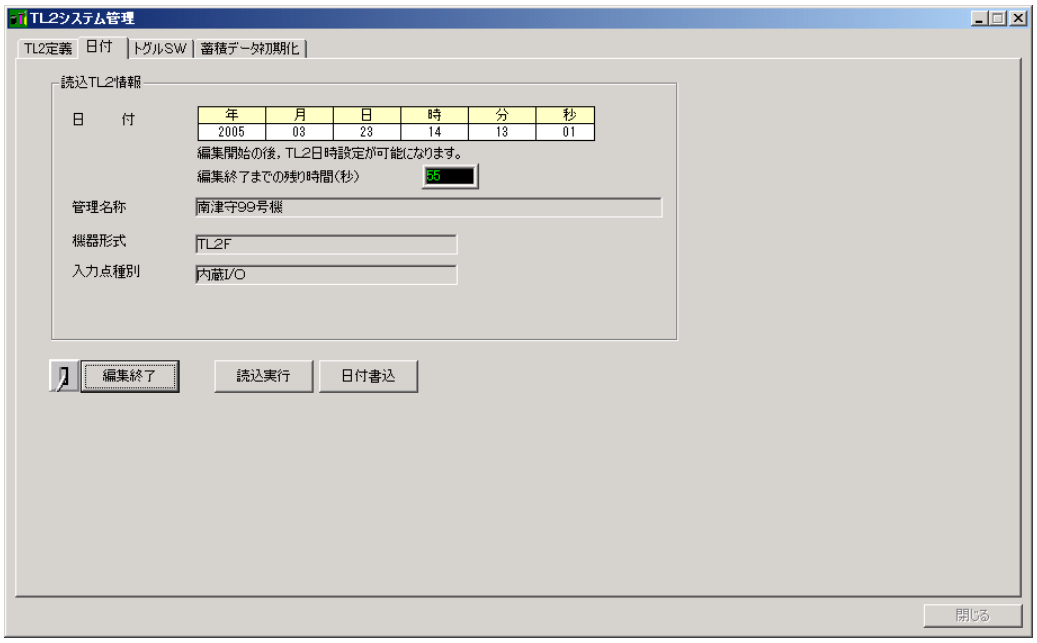

図５－１．日付変更画面

5-2 読込み

「読込実行」ボタンを押すことでＴＬ２の現在時刻を取得できます。

5-3 書込み

ローカル接続の場合はＴＬ２トグルＳＷ、リモート接続の場合は実効トグルＳＷがそれぞれオフラインである必要があります。編集開始から１分以内に日時の変更を行い「日付書込」ボタンでＴＬ２へ書き込みを行ってください。

注意：年月日の変更を行うと、蓄積されたトレンドデータが初期化されます。
　　初期化したくない場合は、時分秒の設定だけを行ってください。

6. 蓄積データの初期化

蓄積されている日報、月報、年報データ、異常・運転ログ、一分トレンドデータ、システムログ等を全て消去します。ローカル接続の場合はＴＬ２トグルＳＷ、リモート接続の場合は実効トグルＳＷがそれぞれオフラインである必要があります。初期化を実行する前に稼動状態を確認してください。

「蓄積データ初期化」ボタンを押すと蓄積データの消去が開始します。実行後の取り消しや消去中に他の操作は行えません。

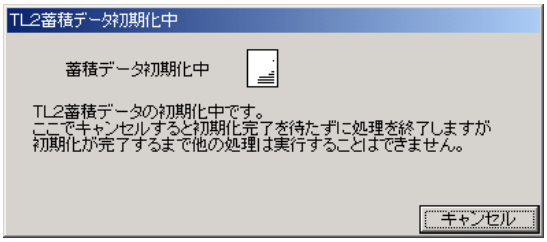

図６－１．データ初期化画面